国語科（文学国語）学習指導案

日　時　令和 7 年 11 月 17 日（月）
　　第 5 校時　13：20～14：10
学校名
対　象　第 2 学年　　組　　名
会　場　1　階　　会　議　室
授業者

1　単元（教材）名

単元名：小説を楽しむ
教材名：井上ひさし『ナイン』（『新編　文学国語』大修館書店）

2　単元の目標

・　文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めることができる。
〔知識及び技能〕⑴ウ

・　文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えることができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕 B⑴ア

・　語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、 内容を解釈することができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕 B⑴イ

・　言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

3　本単元における言語活動

作品の内容や形式に対する評価について、評論や解説を参考にしながら、論述したり討論したりする活動。（関連：〔思考力、判断力、表現力等〕 B⑵イ）

4　単元の評価規準

ア　知識・技能	イ　思考・判断・表現	ウ　主体的に学習に取り組む態度
①　文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。（⑴ウ）	①　読むことにおいて、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。（B⑴ア） ②　読むことにおいて、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。（B⑴イ）	①　作品の内容や構成、展開などについて叙述を基に粘り強く読む対話活動を通して、内容や展開を、学習の調整を行いながら的確に捉えようとしている。

５　指導観

⑴　単元観

本単元は、高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）第２章第１節　国語　第２款　第４　文学国語　２内容〔思考力、判断力、表現力等〕Ｂ読むこと⑴の指導事項「イ　語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈すること。」、⑵の指導事項「イ　作品の内容や形式に対する評価について、評論や解説を参考にしながら、論述したり討論したりする活動。」に基づいて設定した。

本単元では場面や展開を的確に捉えた上で文章の解釈を深められることを目指す。解釈は、根拠を基に読み手が作り出すものであり、読み手の知識や経験によって解釈の多様性が生み出される。読み手の間で解釈が異なることもあれば、読み進めるうちに読み手の中で徐々に解釈が異なっていくこともある。そのため、他者の多様な解釈を聞き、考察し、読み手や読み手の置かれた状況などによって解釈が異なることを学ぶ。このような学習活動は文学的文章を通じて、読み手同士が互いの解釈を理解しながら相互に関わり合うことであり、人生を豊かにするための大切な思いや考えを学ぶことにつながる。これらを達成するために、根拠となる文や語とともに解釈を考えるよう指導に取り組む。

⑵　生徒観

第１学年の言語文化では、叙述を基に出来事や場面の移り変わりを的確に捉え、人物の考えや心情を読み取る力を身に付けることを目標とした古文・漢文の読解を行った。

第２学年の文学国語では、①視点の効果　②対比による読解　③比喩表現の解釈　を中心に指導をした。これらを理解するために、短編の小説を書く学習活動も行った。小説を書く際に作者は丁寧な描写を重ね、状況や心情を伝えようとするため、登場人物の心情は直接的に書かれることは少なく、前後の行動から読み取らなければならないことを学んだ。

６組の生徒の学習への意欲は良好なものの、書かれている語句や表現から場面や心情を推測することを苦手とする意識は強い。『柿』の単元において作品が表している時代を読み取る活動を行った際、『あすふぁると』『今様江戸』という語句が登場することから現代を描いた作品であると読み取ることができた生徒は 10%程度であった。また、比喩表現の解釈を考えることはできるが、言葉で表現したりその根拠を言葉にして表したりすることを苦手とする生徒が多い。そのため、個人での作業だけでなく他者と意見を交換する機会を増やし、多角的な意見を取り入れさせることで、読解の深化を図る。また、生徒によって内容の理解の到達度の差が大きい。そのため、課題にはヒントを用意し、オンライン上に配信する。解答にあたってヒントを確認したい生徒のみが確認できるようにし、全ての生徒が主体的に学習に取り組めるようにする。

⑶　教材観

本教材は1987年に刊行された小説で、東京五輪以降の変わりゆく東京の町並みと人間模様が描かれている。生徒にとっては馴染みのない場面の設定であると考えられるため、単元の導入では場面や時系列の確認を丁寧に行う。また、本教材でも対比による読解で理解を深めることができると考えられる。新道少年野球団を外部から見ていた「わたし」と少年野球団の一員として正太郎を近くで見ていた英夫、主将の正太郎とそれ以外のメンバー、開発前後の四谷の町並みなど、様々な事柄を対比して読む活動を設定する。

６　年間指導計画における位置付け　（第２学年　「文学国語」　読むこと）

時期	教材名	重点指導事項
１学期（中間）	『少なくとも最後まで歩かなかった』 『柿』	ア　文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えること。
１学期（期末）	『神去なあなあ日常』 『そとみとなかみ』	ア　文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えること。
２学期（中間）	『晴れた空の下で』 『身内ほど厄介なものはない』	ア　文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えること。 イ　語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈すること。
２学期（期末）	『ぼくのお母さん』 『ナイン』	ウ　他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察すること。 イ　語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈すること。
３学期	『山月記』	オ　作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めること。

７　単元の指導計画と評価計画（５時間扱い）

過程	時	目標	学習活動	評価規準 (評価方法)
構造と内容の把握	第１時	一人称視点で書かれている作品の特徴を理解することができる。	１　本文を通読する。 ２　場面の設定を読み取る。 作品の視点を読み取る。 ３　物語の視点とその特徴について考え、内容を共有する。 ４　P53L13「この何十年かのうちに、ここには西日が差さなくなってしまったようである。」の一文の効果を考え、まとめる。	ア―① 一人称視点で展開されているため、中村さんや英夫くんの感情が明確に描かれていないことを理解している。 （記述の分析）

精査・解釈	第２時	新道に対する「わたし」の思いを読み取ることができる。	１　中村さんの人物像を読み取る。 新道に対する「わたし」の思いを読み取る。 ２　Ｐ42Ｌ14「厚化粧だが、なんだか素っ気のない小路に化けてしまったこともたしかだ。」という一文から、「わたし」が今の新道に対してどのように感じているかを考え、内容を共有する。	イ―① 自給できなくなった町を残念に思っていることを読み取っている。（記述の分析）
精査・解釈	第３時	中村さんの正太郎に対する思いを読み取ることができる。	中村さんの正太郎に対する思いを読み取る。 １　Ｐ47Ｌ５「口にしたくないと言いながら～能弁になった。」ことの理由を考え、内容を共有する。	イ―① 正太郎に対して不愉快な感情をもっている一方で、正太郎に関する出来事を聞いてほしいことを読み取っている。（記述の分析）
精査・解釈	第４時	英夫の「真実から遠ざかってしまうような気持ちがする。」という心情を読み取ることができる。	英夫の発言の理由を考える。 １　Ｐ51Ｌ6「おじさんにはわかりません」と英夫が言ったときの心情を考える。 ２　Ｐ51Ｌ13「口に出すと、なにもかも嘘になってしまうような気がする」とはどのようなことか考え、内容を記述する。	イ―① 心の中の思いを言葉で表現すると、真実から遠ざかってしまうような気持ちがするということを読み取っている。（記述の分析）
考えの形成	第５時 （本時）	英夫の心情を考えた上で、作品を英夫の視点の文章に書き換えることができる。	１　英夫の言動の理由を考える。 ２　英夫が登場してからの場面を、英夫の視点の文章に書き換える。 作品を英夫視点の文章に書き換える。 ３　他者が考えた英夫の言動の理由を参考に、英夫の視点の文章に再度書き換える。	イ―② 英夫視点の文章に書き換えた上で、英夫の発言を心情とともに書いている。（記述の分析） ウ―① 英夫の言動の理由について粘り強く考え、解釈を深めようとしている。（記述の分析）

８　指導に当たって

班テーマ：「主体性を重んずる授業展開」

⑴　授業の工夫

授業では記述で解答する問題を出題する。解答を個人で考えた後、オンラインホワイトボード上に集約することで、他の生徒の解答を確認し、意見の共有や批評をすることができるようにする。また、課題にはヒントを用意し、オンライン上で配信する。これにより授業への理解が十分でない生徒も粘り強く、主体的に学習に取り組めるようにする。

⑵　評価方法の工夫

本単元では主体的に学習に取り組む態度を、第５時を中心に評価する。適切に評価をするために、一度解答を提出した後は他者の解答を確認したり、意見を共有したりする。この活動を通して粘り強く考えた上で再び解答を提出し、学習の調整をすることができたかを確認する。

また、本時においては思考力、判断力、表現力等と関連させながら、主体的に学習に取り組む態度を以下のように評価することで、適切な評価を行えるようにする。

Ｂ：他者の作品を見たり他者からの意見を聞いたりし、粘り強く考えた上で英夫の視点で小説を書いている。

９　本時（全５時間中の第５時間目）

⑴　本時の目標

本文の展開を理解した上で、解釈を深めることができる。

⑵　本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準(評価方法)
導入 ５分	１　前時までの内容を確認する。 ２　前時までの内容に関する問題を作り、他者に出題する。	・　ペアで確認し合う。前時までの内容の理解を全員ができるようにする。	
	目標：本文の展開を理解した上で、解釈を深めることができる。		
展開 40 分	３　Ｐ51Ｌ11 軽く唸りながら言葉を探しているようだったときの英夫の心情を、そのように考えた理由とともにワークシートに記述する。	・　以下のヒントをオンライン上に配信する。 正太郎について、①「私」や中村さんは少年野球団を応援するだけであったのに対し、英夫は団の一員として正太郎をそばで見ていたという違いがある点。　②当時から大人であった中村さんは正太郎を好ましく思っていないが、当時は団の一員だった英夫は正太郎を信頼しているという点。 の違いがある。	
	４　Ｐ50Ｌ15 からＰ51Ｌ15 までを英夫の視点の文章に書き換え、オンラインホワイトボード上に提出する。	・　セリフについては鍵括弧を外したものをオンライン上に用意し、入力する時間を短縮できるようにする。	
	５　軽く唸りながら言葉を探しているようだったときの英夫の心情とその理由、英夫視点に書き換えた文章をオンラインホワイトボード上に入力する。		

	6　３～４人の班を作り、オンラインホワイトボード上の意見について批評する。 7　P50L15 からP51L15 を英夫の視点の文章に再度書き換える。	・　批評する際は、意見の根拠があるか、またその根拠が納得できるものかどうかを基準とする。 ・　一人称視点の特徴について意識できるようにする。	イ―② （記述の分析） （「おおむね満足できる」状況Ｂの例：一人称視点の特徴を踏まえたうえで、英夫の視点で作品を書き換えている） ウ―① （記述の分析） （「おおむね満足できる」状況Ｂの例：英夫の視点で小説を書いている。）
まとめ ５分	8　本時の内容について振り返り、整理する。	・　英夫による一人称視点の場合、英夫以外の心情の描写は描かれないことと、英夫の発言に適した心情の描写を書くべきであることを意見を引き出しながら理解できるようにする。	

⑶　板書計画

【ＩＣＴ機器による投影】

目標
本文の展開を理解した上で、解釈を深めることができる。

・オンラインホワイトボードの使用方法

・一人称視点の注意点

⑷　授業観察の視点

- 本時の目標は適切であったか。
- 学習活動や教具は本時の目標を達成するための手立てとなっていたか。
- 本時の目標は達成されていたか。
- 生徒が主体的に学習活動に取り組めていたか。

東京教師道場（２年次）　　国語　　高等学校２班

研修の概要

１　東京教師道場について

４名の部員と１名のリーダーと担当教授からなる班で、主に授業観察と協議からなる授業研究を行う２年間の研修である。

<table>
<tr><td rowspan="3">１年次</td><td colspan="5">第１期　把握・点検期</td><td>第２期　発展・充実期</td></tr>
<tr><td>第１回
授業研究</td><td>第２回
授業研究</td><td>第３・４回授業研究</td><td>夏季集中協議
（班）</td><td>夏季集中協議
（組）</td><td>第５～10 回
授業研究</td></tr>
<tr><td>教職員研修センター</td><td>リーダーの所属校</td><td colspan="4">部員及びリーダーの所属校等</td></tr>
<tr><td rowspan="3">２年次</td><td colspan="2">第２期　発展・充実期</td><td colspan="4">第３期　自立・完成期</td></tr>
<tr><td>第 11 回
授業研究</td><td>第 12～14 回
授業研究</td><td>夏季集中協議
（班）</td><td>夏季集中協議
（組）</td><td>第 15～19 回
授業研究</td><td>第 20 回授業研究</td></tr>
<tr><td>教職員研修センター</td><td colspan="4">部員及びリーダーの所属校等</td><td>教職員研修センター</td></tr>
</table>

・　２年間で３回、学校種を越えた授業研究を実施した。

・　夏季休業期間には、夏季集中協議として、模擬授業や授業力の自己診断に基づく協議、教材や実践事例の紹介等を行った。

２　班での取組及び班テーマについて

<table>
<tr><td>第１期

把握・点検期</td><td>班の部員の所属校は、生徒の実態が様々である。そのため、生徒の資質・能力の育成を目指すうえで、生徒の実態に応じた教材研究や目標設定が求められる。部員は各所属校で、生徒の資質・能力を育み、学習意欲を促せるよう、教材研究・指導を行い、試行錯誤を重ねてきた。授業実践を振り返り、課題として、授業内で生徒自らが学習調整を行う力や、粘り強く学習に取り組む態度といった、主体的な能力の伸長を促すことや、その能力について適切な評価を行うことが必要だと考えた。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">第２期

発展・充実期</td><td>「指導と評価の一体化――第三観点を中心に」</td></tr>
<tr><td>「指導と評価の一体化」が求められているが、漠然としており、特に「主体的に学習に取り組む態度」の評価については各々の教員が悩んでいるという点が、高等学校２班では課題として挙がった。そこで、学習調整力や粘り強く取り組む態度について評価する方法を実践していくことを目標とし、班テーマとした。評価ができたとしてもそれを行うために多大な時間がかかってしまう可能性も考えられ、持続不可能で再現性を欠いたものとなる。そこで、教員の働き方を考慮しつつ再現性を担保しながら生徒の学びに寄与する評価方法を模索した。
第２期の成果として、意見交流により考えを深め、同じ問題に再度取り組んだものの評価をすることで粘り強さの可視化を図った。それにより、学習調整力や取り組みへの粘り強さを高める指導と評価を考え、実践することができた。生涯にわたって自己を向上させるために、学習における意欲や粘り強さが求められることを踏まえると、「生徒の主体性とは何か」について改めて考え、授業展開の実践に生かすことが今後の課題である。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">第３期

自立・完成期</td><td>「主体性を重んずる授業展開」</td></tr>
<tr><td>第２期の授業研究を受けて、生徒の学習調整力を伸長することや課題に粘り強く取り組む機会を意図的に授業に組み込むことが大切だと考え、本目標を設定した。適切な評価をすることに加え、授業の中で生徒の主体性を高める手立てを考え、研究授業で提案する。</td></tr>
</table>

３　成果と課題

		成果	課題
授業力の６要素	使命感、熱意、感性	小説の読解を通して、生徒の豊かな人間性を育むことを意識しながら教材研究・授業に取り組むことができた。 特に作品に対して自身が魅力を感じた点を生徒に伝えながら授業を進めることで、読書活動を生徒に推進することができた。	本文中の語を丁寧に読み取っていく技術は十分でないと考えている。本文の面白さを生徒により伝えられるよう、引き続き授業や教材の研究に取り組む。
	児童・生徒理解	生徒が進路実現を達成するために必要な力を理解した上で授業を組み立てることができた。	学習活動において、生徒に必要な手立ての内容が十分でないときがある。生徒の実態に応じた適切な学習活動と手立てを考え続ける。
	統率力	学習活動の時間の配分を示すことで、生徒に取り組むべき活動を明確に示しながら授業を行うことができた。	授業の見通しが十分でなく、時間の配分が適切でないことがある。
	指導技術（授業展開）	単元ごとに振り返りを行って、学習の調整を図ることができた。	板書が生徒の思考を広げたり、深めたりするものとは程遠いため、今後は効果的に使えるよう工夫する。
	教材解釈、教材開発	生徒に育ませたい力を意識しながら授業ごとに問題を作成することができた。	今後も文学的文章の教材研究に力を入れる。そして、生徒の興味・関心も引き出せるように教材の魅力を伝える。
	「指導と評価の計画」の作成・改善	本文を用いて、知識・技能や思考・判断・表現について適切に評価する問題を設定することができるようになった。	主体的に取り組む態度を適切に評価するための問題の設定と評価の方法については今後も研究を続ける。